③

令和８年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間共有会

活動団体の本事業での活動テーマ
『バイオ炭活用と福祉NPOとの協働による
農・福・環連携事業』

活動団体の活動地域：北海道美幌町ほか
活動団体名　　：㈱大雪を囲む会
中間支援主体名　　：㈱地域価値協創システム

１．中間支援主体のありたい姿

■中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

〇中間支援主体としての目指す姿
活動主体の長所を活かし、足りない分を補完する方策を提案できる能力、意欲を持ち続けることができる。
〇必要な中間支援機能（獲得目標）
①戦略ビジョンの策定のための話し合い、学びの場の提供
②域内外の関係者や専門家とのつながり創出、強化
〇具体的なアクション
有機農業への関心を高めるために、有機農業拡大が環境保全、循環経済共生圏づくりへ寄与し、地元にとって利点が多いことをわかりやすく伝える。
社会福祉との連携事業に強みをもつので、十分に生かす方法、展開を検討する。
北海道外での有機農業関連商品販売推進のため、協力事業者間の関係性強化に努める。

■中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

【ローカルSDGsを実現した地域社会】
人口規模が小さく、豊かな自然環境に恵まれているオホーツク地域の農業生産者から率先してSDGsを実現するために、様々な地域資源を持ち寄り、地域内外のつながりも活かす仕組みをつくり、有機農業を軸として、多様な人たちがSDGs理念を共有しつつ、主体的に行動し、地域課題を解決していく地域社会づくりに貢献する。

２．中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■中間支援主体の1年間の支援目標

○　福祉ＮＰＯとの協働事業実施
　　農産物・加工品共同販売システム参加メンバーの強化
○　地域共生圏づくり構想具現化
　　有機農業を軸としたゼロカーボンファーミング推進システムの告知活動強化
○　支援ネットワーク拡大
　　支援者・支援企業の拡大と道内外での拠点づくり

■支援計画

	活動団体の取組における現状と課題（見立て）	課題を解決するために必要と考える手段（打ち手）
①	有機農法や農業における地球温暖化対策に関心を持っている生産者や消費者は一定数いるが、バイオ炭等を含めて情報が十分に伝わっていない	有機農法やカーボンファーミングに取り組む意識を持つ生産者への取り組みやすい手法提言（バイオ炭の融雪材利用で作業を増やさず有機農業に取り組む方法等の説明セミナーやイベント開催支援）
②	地域の多様な人材を受け止める社会福祉事業者において、新しい事業が生み出されにくい	社会福祉事業者の事業力強化への支援活動をおこない、資金の地域内循環体制を推進する。
③	地域において、環境、社会、経済の課題の同時解決を支援する（協働を促す）体制が整っていない	オホーツク地域の関係者を中心に地域外のメンバーも加えたプラットフォームの確立を図り、温暖化対策モデル地域を目指す。

3．中間支援のふりかえり

■ 3か年を通じた中間支援のふりかえり

地域循環共生圏づくりの過程の支援を通じた「気づき（中間支援が機能したポイント等）」「新たに認識した課題や悩み」「中間支援主体自身の変化（意識や視点、技術等）」「今後の地域づくりの構想や地域外との関係者との連携方策」 等についてご記入ください。

●有機農法や農業における地球温暖化対策に関心を持っている方が多い一方、炭などをを含めた具体的な方法となると取り組むのに難しさを感じている方々が多い、手法や提言を伝えて情報の整理をしていくと、興味から気づきとなり事業に発展する可能性がある。そのためのゴールを一緒に考えていく連携の強化が必要。

●地域の多様な人材、多様な企業を受け止める組織が少なく新しい事業が生み出されにくい。
社会福祉事業者の事業力強化への支援活動をおこない、資金の地域内循環体制を推進する。

●地域において、環境、社会、経済の課題解決が経済にも結び付き、企業と人材の育成に繋がっていく指導システム（協働を促す）体制が整っていない